

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団みどりの会酒井病院	代表者	長谷川 麻衣子	法人・事業所の特徴	利用者様・ご家族様に最大限活用して頂けるよう、時間延長サービス等を柔軟に受け入れ、医療法人が運営していることから、医療必要度や介護度の高い利用者様の受け入れも実施している。また、通いサービスにおいて、利用者様と職員が様々な行事を通して関わりを多く持つことで、馴染みの関係を築くことを目的に全体で取り組んでいる。
事業所名	小規模多機能ホームさかい	管理者	高橋 裕子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	2人	0人	1人	1人	0人	14人	0人	18人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員間で利用者様の情報共有を行い、これまでの生活習慣が継続できるような支援を行う。家族会では、介護に関する勉強会を実施する。	担当制を導入したことで、利用者様を深くアセスメントすることができ、これまでの生活習慣が続けられるような支援ができた。コロナの影響で、家族会は開催できなかった。	事業所内の事は目にすることが無いので、評価シートでの確認になるが、自己評価が高いので頑張っていることが分かった。	引き続き、申し送りと部署会議を行うことで利用者の情報やニーズを共有し、共通認識を持つことで統一感のあるケアを実施する。
B. 事業所のしつらえ・環境	小規模の場所が分かるように、看板を作成している。	小規模の場所が分かりやすいように、看板を設置した。	看板は小さめだが、色も分かりやすいので初めて来た方でも迷いにくくなったと思う。	感染症対策を徹底し、安心して利用して頂ける環境づくりに努める。
C. 事業所と地域のかかわり	ティーサロンだけでなく、小規模でのイベント開催時に地域向けに案内を配布する。雰囲気を知ることによって身近に感じて頂く。	今年は、イベントの開催が困難なため、地域との関わりを持てる機会がほとんどなかった。	コロナで地域イベントが中止になり、関わりが持てなかった。	イベント以外にも地域との関わりが持てる方法を検討していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	地域でのイベントに参加し、交流を図ることで、ご近所・顔なじみの方はもちろん新たな関係性づくりの一助となる。	地域のイベントの開催が、コロナの影響で開催されなかったが、フルーツガーデンで行ったイベントには参加することができた。	コロナで予定していたイベントが中止になった。今はふれあい給食は再開している。	イベント再開時には感染症対策を徹底し、地域の方と協力のもと参加できる体制を整えていく。
E. 運営推進会議を活かした取り組み	情報交換し、地域のイベントに積極的に参加することで、実情を知り、地域での課題を共有する。	コロナの影響により、2回運営推進会議を延期した。コロナ禍での事業所、地域での取り組みを共有できた。	地域、事業所でのコロナ対策の共有ができた。(マスク・換気など)	事業所として地域にどのように関わっていけるか、新たに必要の方に関して参加者と共に考えていく。

F. 事業所の 防災・災害対策	開催時期をお知らせし、スケジュールや役割分担を明確にすることで有事の際にスムーズに行動できるようにする。	コロナの影響もあり、地域の方を含めた訓練が実施できなかった。	今年は地域でも防災研修や訓練の開催が難しかったので、地域毎の実施となった。	年に2回の防災訓練を通して、日頃から災害対策への認識を高めておく。
--------------------	--	--------------------------------	---------------------------------------	-----------------------------------